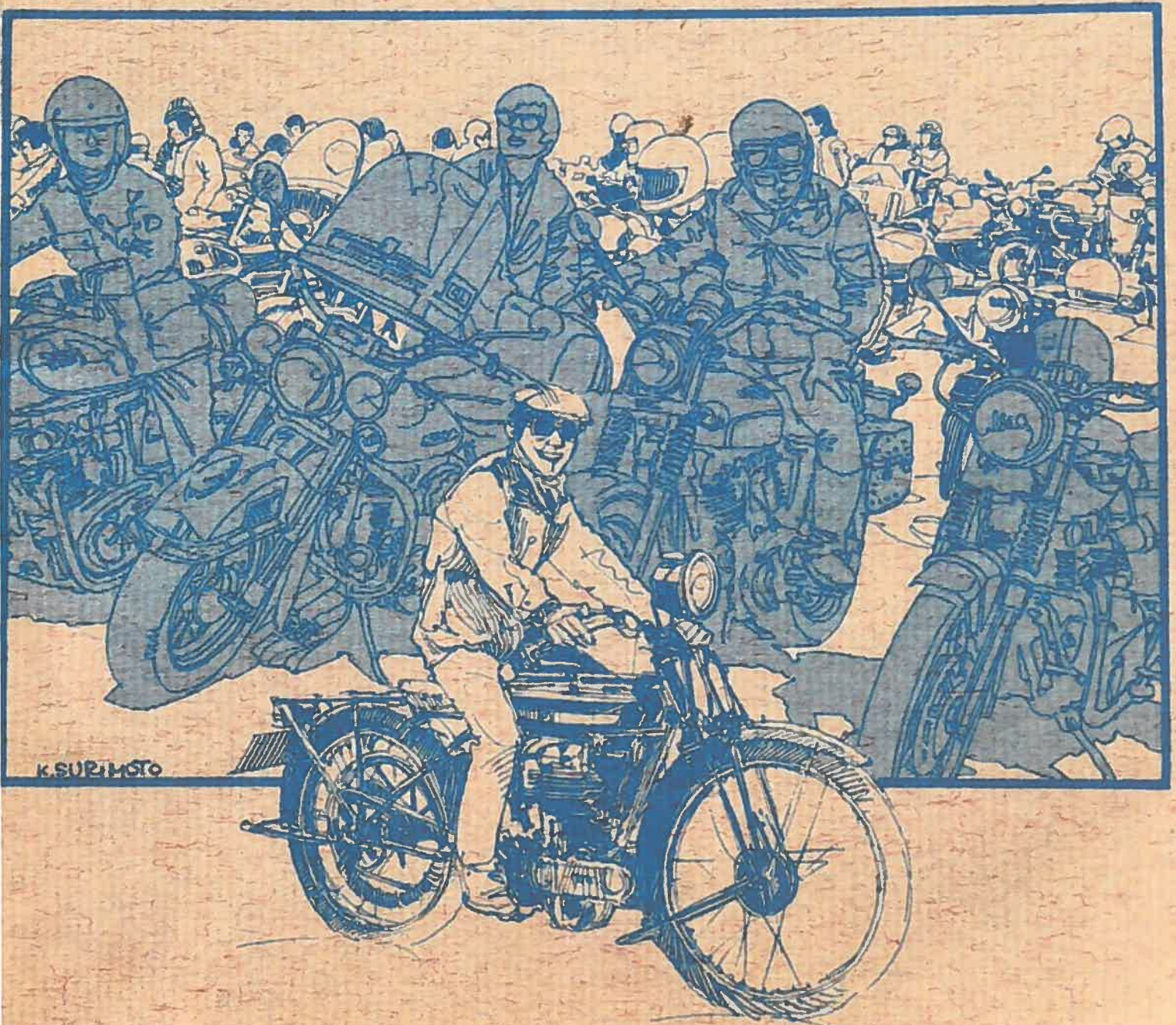


# アサマ ミーティング クラブ

'76. Jun



No. 1 会報



## ごあいさつ

このたびは 浅間ミーティングクラブに御入会下さりまして、ありがとうございます。会報のカー号をお届けするにあたりまして 発起人一同、心からお礼申し上げます。

私どものまわりには 数年前から、古い車を何とか 1台でも多く保存したい、もっと多くの仲間と知り合いたい、そして日本版エシファント・ラリーをやりたい、という夢がいつもありました。そしてそれが ばかりでも 軽井沢の星野御一族の絶大の御理解をいただき 集る場所と展示館を提供していただけることになり 今日このような形になったわけです。

会則にも、オートバイを持ってゐる、あるいはかかわらぬ オートバイに情熱と関心を持つ方なら男女老若を問はずと書いてあるとおり、私どもは、このクラブをとおして、より沢山の方かたとともに オートバイの過去や将来を考え、そして楽しみたいと念願してゐます。

私たちのモットーは“理窟より楽しみ”ということですよ。とにかく多勢で楽しむ、ということに盡きるのです。オートバイを好きな人は、みな個性の強い人ばかりです。オートバイに向しては、ひとつの方言をもつてゐる人も多いのです。どういふ人達と、いっしょに集り、語り合ひ、知識を交換し合うことは、それはいつか、オートバイを介しての人間形成に役立つだろうことは言つてもありません。

皆さん、どうか4月と10月には 軽井沢にお集り下さい。

場所はわが国モータースポーツ発祥の地、浅間レース場のすぐ下の星野の里です。ここで年に2回、出合ひましょう。

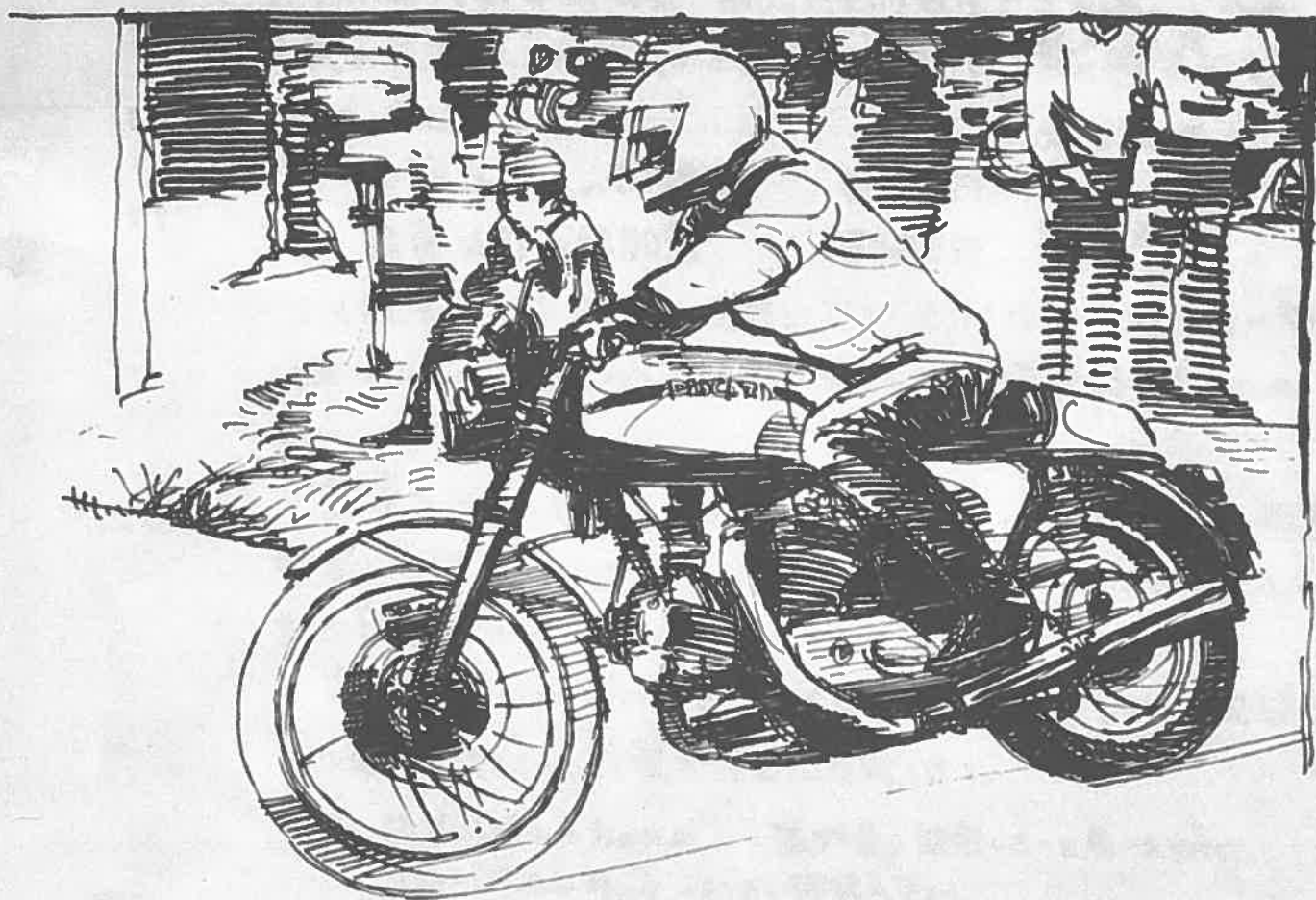
そしてその出合ひを大切にし、又、次も集りましょう。

出合ひの場は心と心のふれあひの場となり、次から次へと語りつがれて やがて出来上がる森の中の展示館のまわりには オートバイが好まど好きで しょうかなという日本中のモーターサイクリストが幾重にも幾重にも手をつなひて 輪になるように、

どうぞ力をあかし下さい。

オートバイは楽しむもの、多少汚れて、うらせみしくて油が滲っていても  
どうぞ皆の浅間ミーティング・クラブにお出で下さい。

乗る人の心はみんな宝石。ほんとうにお待ちしております



K.SURIMOTO

# 目 次

秋のミーティングについて .....	1
コンクールデレガンスについて .....	3
二輪車の展示館について .....	5
浅間ミーティング・クラブ設立までの足どり .....	7
星野とクラブマークについて .....	8
4月18日 あ・ら・かると .....	10
10月の会場の略図です .....	19
会計報告 .....	20
編集後記 .....	20
会員住所 .....	22

## 秋のミーティングについて

4月18日のミーティングは、あっという間に終わってしまった、という気がします。もつといろいろお話ししたいこともあったのですが、沢山の人とオートバイが集って、マリンを見ながらのよもやま話の楽しいひとときは、あまりにも短かすぎて残念……という意見が圧倒的に多かったのだ。秋には、もつとくつろげる時間と、速くから来て下さる方のために、一泊ということに致しました。そして、どうとう本館を全部借り切るという大計画になりましたので、ここに発表します。

### 1. 日時 10月2日(土曜)～10月3日(日曜)

集合は現地とし、ホテルの受入れは10月2日午後1時からで、午前0時には受入れを終わります。

### 2. 会費

参加人数が150人ないと借り切れません。150人が最低のリミットで、これによって計算した結果、6000円という数字が出ました。これは、人数が大巾にふえれば、とれだけ安くなりますので、多数の御参加を希望いたします。

会員及びその同伴者	6000円
会員以外の参加者	6500円

これは税サービス料三食付の金額で、クラブ・カンパなどの上乗せは一切してありません。会員でない方が、500円多いのは通信連絡費用のためです。

**食事**は、当日、仕事をさませてから出発してくるメンバーが多いこと、到着時間に制限をつけたくないため、会食は不可能なので、エントリー申込人数だけ折詰弁当を用意してお待ち申上げます。

朝は食堂でとっていただき、昼食は戶外の愛車のそばで、歓談しながら食事出来るように特製弁当を用意致します。

※ 御家族連れの方のため、お子様料金も設定したいと思っておりますので、エントリー申込み時には、はなまり御記入下さい。

日帰りでないと考えられない方は

会員及びその同伴者 1000円  
会員以外の参加者 1500円

とします。会員以外の方もエントリーを受けますと、いろいろの連絡を行いますので、その費用は年会費を納めてある正会員の方から支出するわけにはいかないのです。やはり500円多くいただくこととなります。

### 3. 申込締切り 8月15日

今回は全館借り切りのため、150名に満たない場合はその分を早急に他から補わないとホテルに大きな迷惑をかけることになるので、エントリーの締切りは8月15日とし、連絡事務所宛に現金の送付をいただくことにより受付と致します。

尚、その以前に集計のため同封の葉書に記入の上、葉書は至急送付して下さい。

尚、ミーティングは天候にかかわらず行いますし、上記の理由によって、お申込後欠席の場合、会費の全額返納はいたしかねますので御諒承下さい。

### 4. 行事

- 1) キャンプファイア 午後8時より
- 2) 映画会 キャンプファイア後、浅間高原レストの記録映画。
- 3) コンクール・デレガンス 10月3日 午前9時30分より
- 4) 昼食及び賞典発表 " 12時30分より
- 5) フリータイム 解散 午後1時30分より  
" 3時30分

## コンクール・デレガンス について

私どもの主旨にもとづき、このコンクールも楽しむことをいちばんの目的として行います。ですから、決してやかましい評価などはいたしません。誰が見てもすばらしいと思われる車に榮譽が与えられるでしょう。そのために審査委員は、エンジン、フレーム、足まわり、塗装、クローム、アクセサリーのエキスパートにそれぞれその部門のみをチェックしてもらってあとで集計する方法をとります。又当日、会場で10名の方に応募していただき審査委員になつていただきます。

出場資格は自走出来ることが条件で、自走する状態、ライダーの服装も採算の対象となります。

カテゴリーは議論百出しましたがやはり楽しむということと、ふたん見られぬ車が出て来るように次のように分けました。

### 外車の部

- A. 1930年までに生産されたもの
- B. 1931年より1950年まで
- C. 1951年より1960年まで
- D. モダン (カスタムを含める)

### 国産車の部

- A. 戦前より1950年までに生産されたもの
- B. 1951年より1960年まで
- C. モダン (カスタムを含める)

面部門ともAカテゴリーに入る車は非常に少ないと思われませんが、それだけに思いがけない車に出会うことが期待されます。

外車Bカテゴリーは特に1930年代に於いてデザイン、設計、工作技術などがクラフツマン・シップ、職人氣質によって、もつとも円熟した時期であるだけに、1台1台が充分に鑑賞の対象になるものです。戦争をはさんで同じカテゴリーとしたのは戦争直前のモデルと直後のモデルは基本的に同じものが多いという理由です。

外車Cカテゴリーと国産車Cカテゴリーは同年代が並びますが、落ち着いた雰囲気をもつ外車のこの10年に対して、この10年を外車の20年にも匹敵できるような進歩と変化を示した国産車の移りかわりの対比が興味をひくと思います。

両部門ともモダンのカテゴリーは日常使われてゐる車が主力となるでしょう。この部門にカスタムが含まれてゐるのは、全く既製品のオートバイにあきたらず个性的に、また乗り手にあわせてカスタマイズされたもので、保安基準に合致した装備のものが望まれますが、4ヨッパー、レーサーも、もちろん歓迎致します。

旧い車であればあるほど部品の入手がむづかしいのは当然で、ともかく走らせたいというオーナーの熱意をくんで他車の部品の流用などは、一切問題といたしません。オリジナルということは何論尊重はしますが、創意工夫はもっと尊重すべきものだと考えます。したがって塗色など、旧い車が最新の塗色などをしてあれば話は別ですが、その車によくマッチてゐればこれも問題とは、いたしません。

長途を走って来て、ほろりまみれの車であっても拍手がわく、……そんなコンクールにしますので、ふるって参加して下さい。参加申込みは同封の葉書に記入の上、送付して下さい。

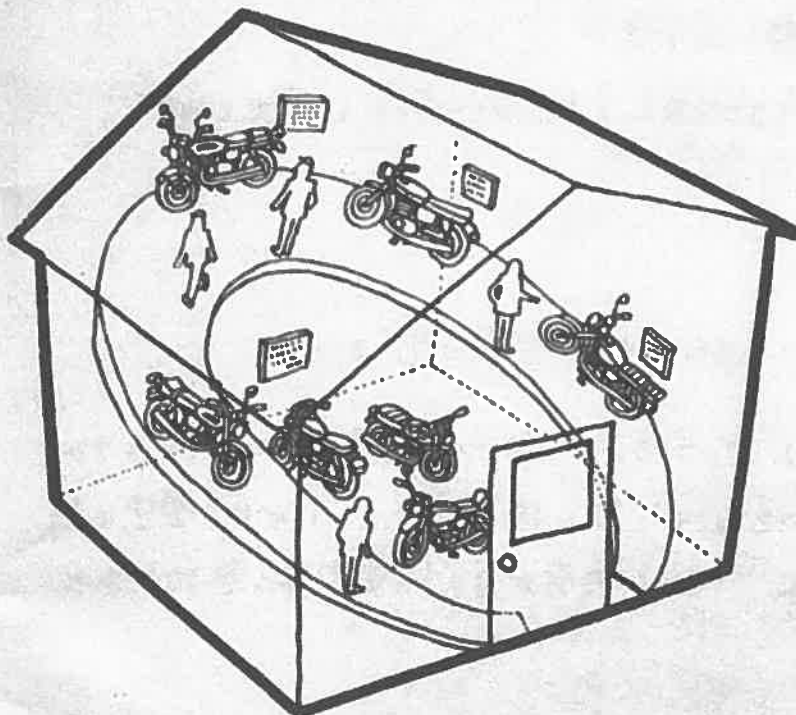
賞典は各部門の1位、としてその中から1位を審査決定して大賞を捧げます。尚、一度入賞した車は3年間は入賞対象外として次山の車に毎年チャンスがゆくようにいたします。

1時30分からのフリータイムは皆さんの車談議の時間で、この時間に撮影などを充分お楽しみ下さい。尚、この時間にこういうことをしたらどうかという御意見をお待ちしてをります。



## 二輪車の展示館について

浅田ミーティングクラブの二輪車展示館についてはモーターサイクリスト誌2月号にも報道されました。それよりもオートバイ誌12月号にくわしくのつてまいります。はじめの予定地は各誌にのった場所ですが、その後国道に近すぎ、本館から遠すぎて管理の日が届かぬというので4月18日、受付場所でお知らせしたとおり、カ2駐車場の裏の斜面にブルドーザーを入れて整地してあります。目下とい方は木材や、瓦があちこちに集つてゐたのに気が付かれたと思います。木造平屋 60坪は中に回廊をもつ構造です。



摺本好作氏の提案によつて回廊の上にも車を置いて、いろいろな角度から車を見ることか出来るようにします。

壁にはイラストや寫眞をかざりますが、皆さん御存知の小出晃氏がクラブの主旨に賛同され、すでに各誌でおなじみの珠玉のようなプラモデルを提供して下さいと決定してをります。小出氏のモデルは、もはや芸術品ともいふべきもので、その実物を見れば、ためいきと共に足が動かなくなること間違ひなして、

展示館の中に資料室を設けようという計画もありましたが、手持ちの資料は、それぞれにかけがえのないものばかりですので、御希望の車種を申出て下さい、コピーして数日後にお届けする方法をとります。このコピーの手数料は実費プラスアルファで、クラブの活動資金の一助となります。展示車については1枚1台の寫眞と解説をしたカタログを用意し、お好みの車の分だけお求めたい。それが、たまたまアルバムになるような方法を考へてをります。

展示館完成の時、裏にクラブマン専用的小部屋を作りますが、これは主として展示館の雑用とか、案内をして下さるクラブマンのための素泊り用. に利用いたします。

展示館の見学は、ごく安い金額を資金(志金?)としていただくにとどめる予定です。

## 展示車について

展示車についてはこれを広くオーナーの御厚意によって求めるということにしてをります。国なりメーカーなりが、このような企画を立ててやるのでしたら、いくらでも買い上げも出来るでしょうが、浅間ミーティングクラブにはそんな資力はありません。假にあつたとしても買い上げに應ずる車の中に、どれを「生きた車」があるかは疑問です。

たゞ、いちばん気がかりなことは大切にしている車を『いいよ、どうぞ……』と1年向展示用に貸してくれるオーナーが、どれだけ居るかということ。これが展示館成否の大きなキポイントとなります。マニアともなると、小だんはあまり乗らず、みがけてはフツリ眺めて楽しむという人がかなり居られるようで、企画立案者としては頭の痛いことです。

ここはひとつ、自分はこういう車を持って、しまつてある。よし、ひとつ多くの人にを見せてあげよう

というように持つて行く他はないのです。

お引受けする以上、出来るだけの取扱いをします。どうか御協力下さい。

展示する車は決してピカピカのショールーム・コンディションの車でなくて結構です。或はさびが出ていたり、油が滲つていたり、タイヤがへつてあるも一向に構いません。いわゆる歴史に残るような名車ばかりの必要も、さらにもありません。むしろ残存がより少い、実用車の参加があればうれしいと思ひます。

玉も石もまじつた状態でもそれはそれで楽しいと思ひます。少くとも東京の交通博物館に展示、というより放置されてあるよりも、はるかに心のもつた展示が出来ることでしょう。

又、こういった試みを通じクラブ員の車の再生のお手伝いや部品の供給はクラブとしてお向合せがあれば、すぐにでも御相談に応じます。将来は展示館の近くにクラブマンのためのバックヤードを作つてサンデーメカニック的な楽しみかたもしてもらえようという計画をしてをります。なかでも仲々、やつてもらえない、鍍金、鍍金シート関係、塗装にはエキスパートが揃つてゐるのでお役に立てると思ひます。

展示お申込みは事務局まで、お申越し下さい。お待ちしてをります。

尚、鑑賞上の理由から受入れ台数は30台と予定してをります。同年式同一車種があつた場合は写真などにより選ばせていただきます。

## 浅間ミーティング・クラブ設立までの足どり

- 50年2月 ---- 星野嘉苗君上京、中沖と会う
- 50年5月 ---- 坂本正治氏と中沖、星野を訪れ徹夜話合う  
" ---- 星野嘉助社長、展示館建設に賛同。
- 50年7月 ---- 自動車工業振興会 定例会席上で星野社長、展示館建設を公表。  
同時にこれを運営する新しいクラブの設立趣意書をおかせ各  
メーカー代表に手渡す。この時点での新しいクラブの名称は  
「クラシック・モーターサイクル・コレクターズ・クラブ・オブ・ジャパン」と  
長ったらしく、かつ、特定のコレクターのクラブの印象が強かった。
- 50年8月 ---- 摺本好作、秋元純一、宮崎透の意見もあり「浅間ミーティング・クラブ」と改稱、組織作りに入る。この時期、大久保力氏の親切な助言を得た。
- 50年9月 ---- カ1回軽井沢ツーリング立案。主体は神楽坂モーターサイクル・クラブとブルックランズ。まだ本氣にする人も少く雑誌社にも友人関係の線からツーリングに紹介。日は10月5日に決定。
- 50年10月 ---- 運悪く、曉方より台風となるも、ほとんど全員、小雨決行、大雨歓迎と集合。36台の集合を得た。席上、星野社長よりあいさつをいただき参加全員クラブの育成を約束し、快晴の夜空の下で解散した。これがカ1回浅間ツーリングである。オートバイ誌のみ台風にゆずれず参加。建設予定地決る。
- 50年11月 ---- 設立についてと会則を定め印刷、配布。
- 50年12月 ---- 発起人集まる。
- 51年1月 ---- 発起人会、4月のミーティング決まる。建設予定地変更、整地始まる。
- 51年2月 ---- 発起人、現地で打合せ、最終決定。
- 51年3月 ---- 委員会。
- 51年4月 ---- カ2回浅間ツーリング 参加313名 正会員190名。

今日に至る。



## 星野とクラブ・マークについて

浅間シヤングクラブのホームグラウンドとなる星野温泉ホテルは明治の終りに創業されたがクラブの会長星野嘉助氏が大正13年より経営にあたられてゐる由緒あるホテルである。特に大正年代の星野には数多くの文化人の来訪が多く、土井晩翠、内村鑑三、与謝野寛、与謝野晶子、島崎藤村、北原白秋、若山牧水らの高名な方々の滞在が多く、会長はそれらの方々にはいろいろ教へられたと述べておられます。文士作家とのあつき合ひの中で星野の人々は常に先を見られ、中でも機械類に意欲を示され、軽井沢への車の運入も他に先んじて早く貴重な車の寫真も数多く残つておられます。又、昭和2年には早くも自家発電に着目され、本館の下に水路を作り貯水池をつくり、昭和4年には本格的なタービンによる発電所を完工、今日も野球場の脇で発電を続けておられます。

星野の広大な敷地は野鳥の楽園であり、鳥類保護区となつており、会長自身長年にわたり鳥類と自然の保護に努められ、数々の栄譽をうけられましたがこの5月勲六等をいただきましたこと、こゝでお知らせ申し上げます。

文化人との交流によって知識を深め、機械一般に興味をもたれる人柄が、浅間高原レース場の開設に多大の奮力をなされ、会長なしではレース場の開設はなかつたであろうと伺つておられます。自然の保護、鳥類の保護に加ふるにモーターサイクルの保護、といった一見全く相反する要素の中に、会長が何を望み何を求められて展示館を作り、クラブの育成にのりたされたか、よくお判りいたしましたと思ひます。

バス・トイレ付の部屋を修学旅行に使わせることでもよく知られており、「この子の中から将来日本を背負つた立つ人があるかも知れぬから粗略に扱うな」といわれる口癖は、占領軍の休養地となつた軽井沢で米軍人がカービンまで使って鳥獣をやたらにとるのに抗議し、米軍司令官に面接を求めて遂にこれを止めさせたなど、まことに明治の人たる面

目躍如としたエピソードは沢山ありますので折に小粋にお話したいとき会報の上をかざつてゆく読物にしたいと思っております。

運営委員 星野嘉苗君の亡きお父上もまた沢山の人を愛し、嘉助氏の下でホテルの経営にあたられるから戦後21年から27年まで軽井沢町公安委員 委員長を歴任され、占領軍休養地としての軽井沢の治安のために全力をつくされ、それが今日もバー、キャバレーなどのるゝ清潔な軽井沢として定着したのであります。絵を良くされ、当クラブのマークの中央の赤い屋根の小屋は星野拓弘氏の絶筆、油絵「離山」からお許しを乞ひ引用したもので、この小屋のイメージは美しいたいすまいをみせる ホテルニューホシノの見晴しの塔のイメージでもあり、星野のシンボルタワーでもあります。

わか 浅間ミーツィングクラブが この塔をシンボルマークとしたのも、いつかモーターサイクルクラブの頂点を究めたという願いが、こめられてゐるのであります。

尚、星野一族は敬けんなクリスチャンであることでも有名で、ホテルニューホシノ前の星野遊学堂は内村鑑三先生の名をけらしたものとよく知られてゐます。

## 会員の特典について

正会員の方は、本来ならば、さまざまの特典を差上げたのですが、何せ財源もなく、又、同好会なものなので、まいならず、心苦しく思つておりましたところ、会長、副会長の御好意におき、会員は星野温泉ホテル利用の時20%引きということになりました。地内に野鳥の森、貸し自転車、アイススケート場もありますので御利用下さい。尚、8月に限り、割引は出来ませんので、悪しからず。

宿泊 休憩のお申込みは、直接 02674-5-5121 へどうぞ。その際、浅間ミーツィングクラブのメンバーであることを、はっきりお伝え下さい。東京事務所は 981-5105 ですが、現地の方がよいと思つてます。

又、ホテルニューホシノは北歐風のおほらしいたいすまいで、その前の遊学堂では結婚式もやってくれます。新夫婦は白馬車、高原の中を町役場まで、婚嫁届を出しに行くのです。

テニスコートも野球場もあります。

## 4月18日 あら.かると

- ★ 4月18日の栄にある1番乗りは茨城県水戸市の立木建男会員のグループで何と明け切らぬ4時の到着!! 南には11時に水戸を出たとのことで寒さにはふるえておられた。車を62年スズキセルパットに非常にきれいに仕上げられておられた。VA-1もほとんど走って来たという。レストア完の美しいハーレー1200や750も来られた。今はシルヴァーポジションを再生中という。こういう地味な車をこつこつと再生して来られるのは敬意を表したい。そしてこういう車で10月にも又来てほしいしコンクールにも出てほしいもの。

トールやキャブトンやアサヒも来なかなあ-----



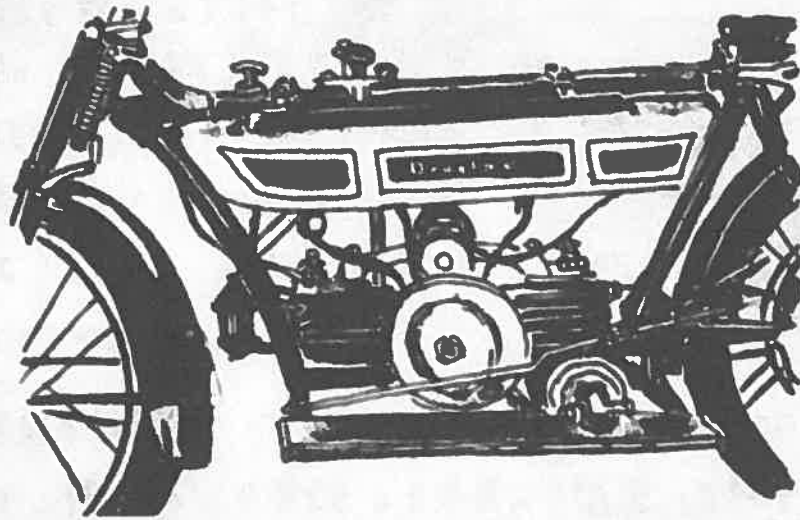
このラクガキ  
ワカルカタ? ワカンタイダローナ

- ★ メグロは熱海の矢内氏、甲府の向山直樹氏、甲府の大間政人氏がSG、東京の齊藤忠一氏、水戸の遠藤和彦氏、甲府の鶴田賢次氏がZ7、宇都宮の遠藤英勝氏がK1と7台揃った。いづれも良いコンディションと耐久性におかれたいことを立証し、又、メグロファンの良いことを感じさせたい。

- ★ トラは榎谷久氏の26年500単からトライデントまで13台に達したあの独特の歯切れのよいエキゾーストサウンドは屋野にひびきわたって全員を魅了した。10月のミーティングにはロクオン・マニアのために1台ずつ紹介して走らせてたもの。野鳥の声のレコードの向うをはずすモーターサイクルの声のレコードでも作るという人はありませんか?

26年のトラ500単コロは鈴木忠男氏により東京から力走力走また力走、また80km/hは出るというご立派。トラックとは合った峠を上げてみるマフラーを落した? ほどの力走だった。帰りはクシタニのサービスカーに積んでいかれたかこの時、途中でエンジントラブルを起した水旺クラブK氏のトラボンネを心お積んで下さった。この場でお礼を申し上げます。

★ 1914年型のダグラス・フラット・ツイン 500も人氣的であった。今までモーターサイクル・シヨウ以外は人の前に出て来なかった車だ。ライダーもハンキングに時代もののゴグル、ニッカーに草靴と来たから注目と歓声があった。ルカス・シルヴァーナイトのアルコールランプをよく見た人があるかな？ 上目？ 下目？ の加減は燈芯も精巧な丸ネジをまわして調整するのだよ!! それにしてもこの車のリヤブレーキの型式は何と言うのだいよう。何はともあれ 10月のコンクールにも再出場を願った車のひとつです。



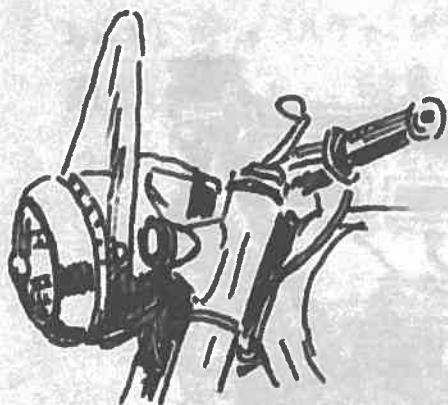
★ 横浜の沼崎氏のライラック 61年LS38も実に美しく圧巻であった。原型とのまいでも今日、十分に通用する美しいデザインであるが、沼崎氏はオリジナリティを十分に尊重されるからツーリングモデルに、注意深くモタノイズさせてある。その神経のこまやかさは、塗色や美しく浅く短、前フェンダーもあらわれている。10月にはライラックの他シリーズが出てくるように希望したいもの。トラゴンとか、まぼろしの名車 R-92 などが来れば、もう平倒しちやいよう!!

尚、バビノライラックはリストアップ済のものか既に現地入りしてある。

★ CB72もさおかに多く、上原公一氏の CP77 を含め、CBA会の手塚氏の 72 と 10台が並んだ。いおれも最高のコンディションにあると見受けた。合法的に一文字ハンドルで走れる車は国産車では今やなほ他にこの群の一文字ハンドルはやはりキリッとしてお？ スーパー・スポーツにぴったりの感があった。やはり「カッコイ—」のであります。

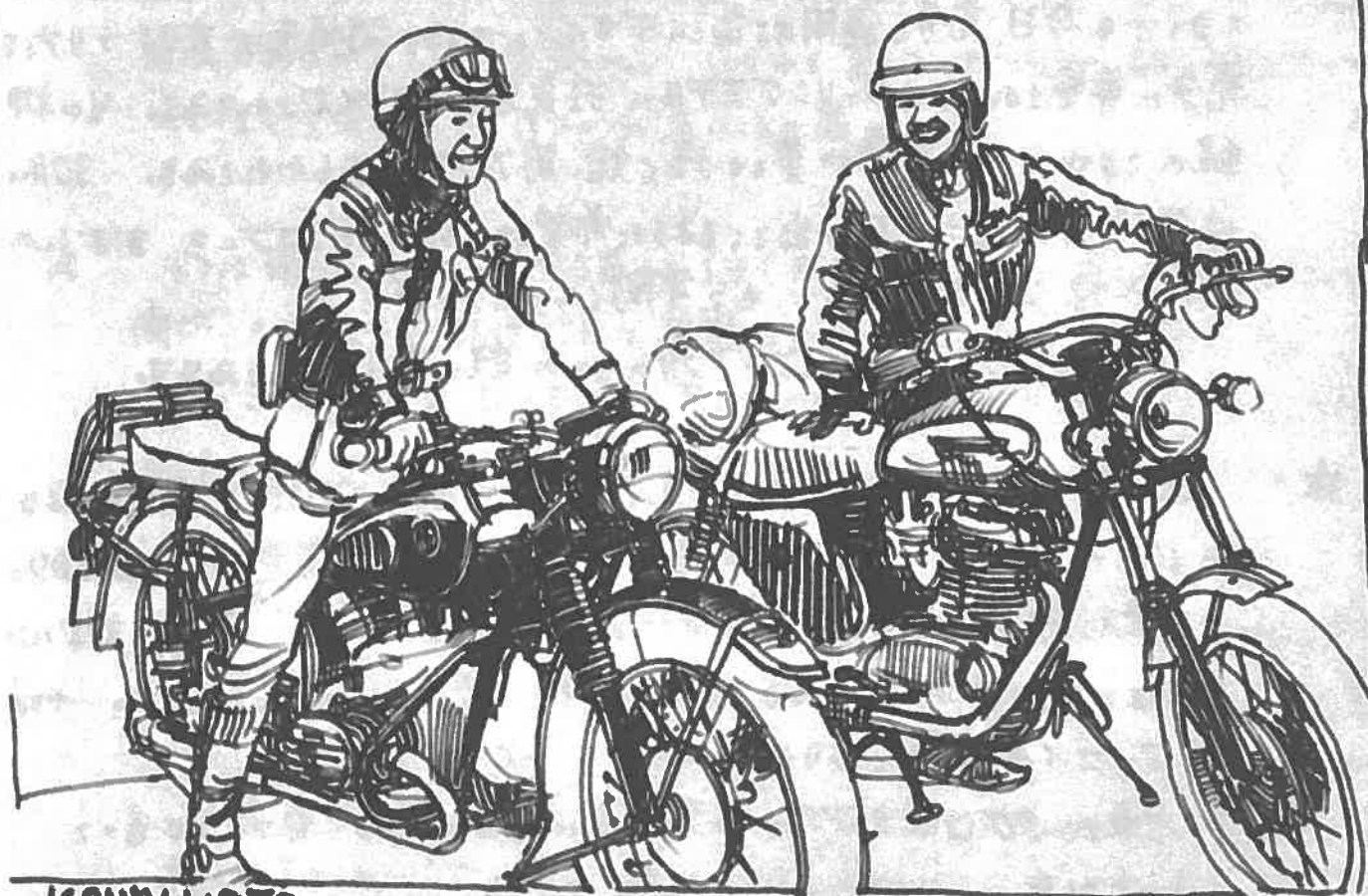
会長が、メグロやホンダはメーカーの人に見せたいなア とつくづく言っておられました。

★ 古いヤマハは水戸の赤トンボと、中沖委員のYDS-1と村岡力君のYDS-Ⅱだけというのは淋しかった。ヤマハはDIもDIIももっと残っているはずである。中沖委員のYDS1は富士ハルコースも走って旧車の国産1位をとったこともある車だが、当日、展示用に屋野に納め帰った。メーターは107000キロを越して好調なだけに愛惜あふあわすという感じで、あの排気音でコーナーを楽しんだため3速2速で旧道をあな残りツーリングをして来た。



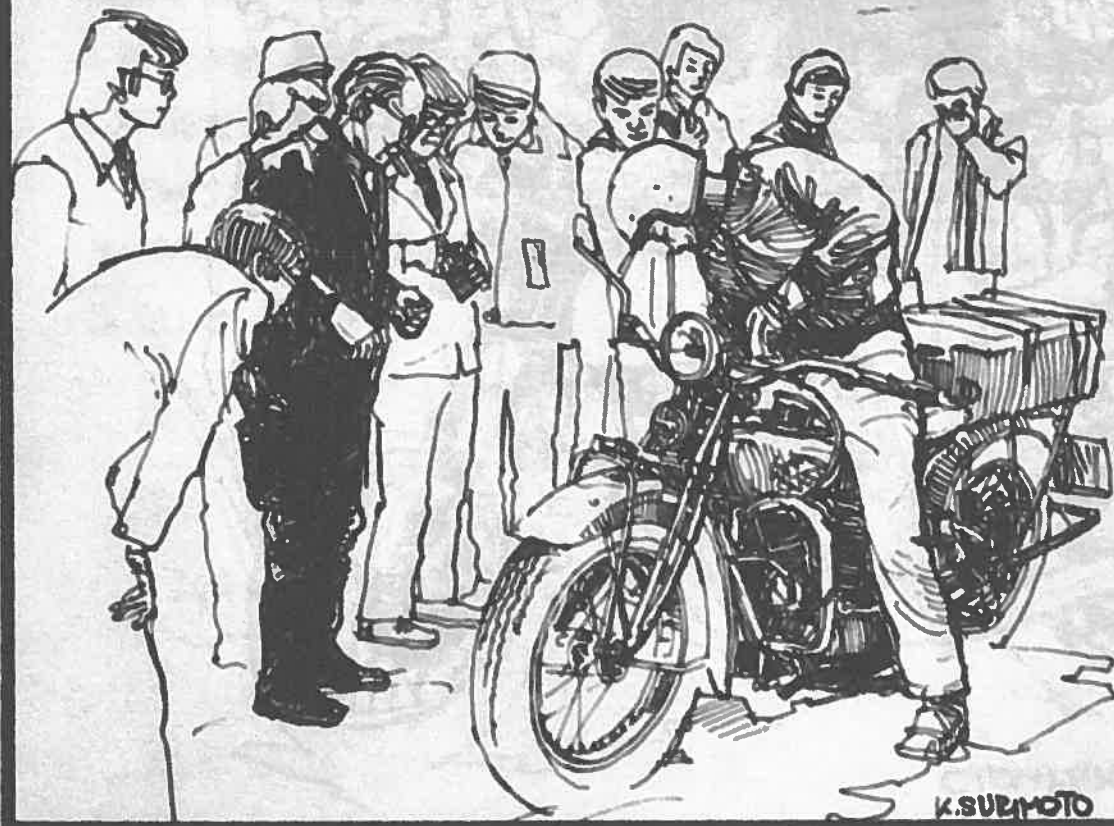
★ マチレスの1台はともかくBSAが1台というのも淋しい。峠を下りたときに3と新大宮バイパスでBSAが事故の軽いのをやたらいいという情報が入っているので心配してあります。まさか同じ車が2回とは思いませんが……

★ BMWは90㍍の5台をこくめり、実は16台。甲府旧車倶楽部の梅村氏のR25と西尾市の中村氏、蒲郡市の藤原氏の52年51/3が特にその静かさを目と耳をひきつけた。あらためてBMWの耐久性と静かさをみせつけられた思いである。



K.SURI MOTO

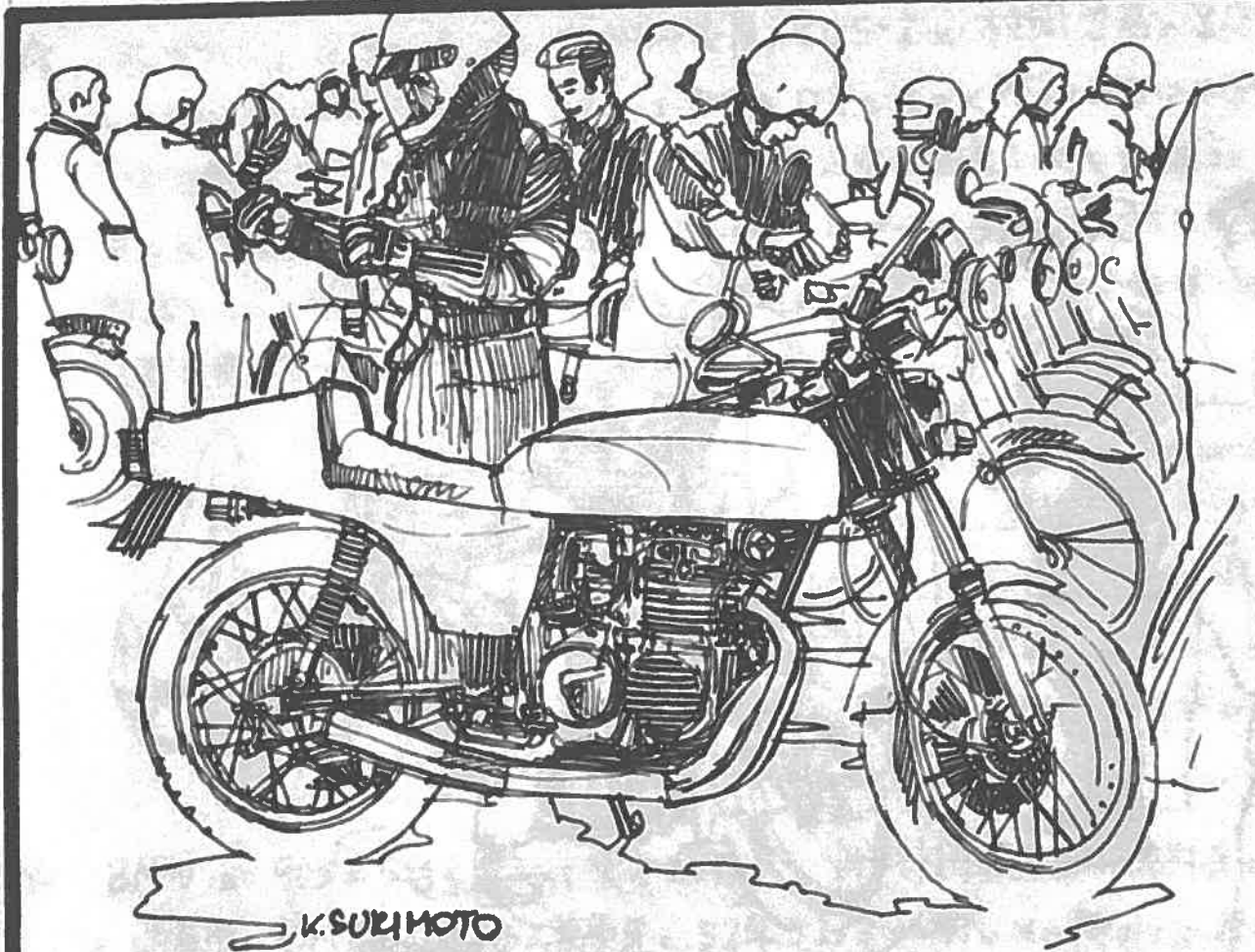




★ 長田氏のインディアンは有名であるが、毎度のことながらおとしには見えぬお元気さには敬意を表するのみである。10月は又、城東陸友会のフルメンバーとして四葉筒で、ゼビと、おわたりしてきたい。

川崎の鈴木氏も28年のインディアン（フロントブレーキなし!!）で来られたが伴走の叔父の睦五郎氏も75/5で59歳のベテランポリでその役を果たされた。このインディアンは後ろに大きな箱をつんであるので聞いてみると、工具一切などのこと、途中で何回使ったかなと笑ってもらった。後日、うかがったら腕と肩と腰がうまくバランスのとれるポジションなので思ったより疲れなかったとのこと。なるほどそんなところかな? と思った次第です。

★ サイドカーが多かったのも予想外であった。CB350, CB450, CB500, W1SA, XS650E, GT750, BMW R50/スタイフ, R69S/7トニオン, ZILなどが参加された。ソロで来た方も美しい女性を乗せた方もあり、楽しい光景であった。帰る時、カーをあげてあいつ? して行く方もあつたりして……



☆ カスタムはあきれ見なかつたけれど、どなたか CB400F に走塗装の FRP ボディの  
スリークなカフェアで乗ておました。TX750 のカウリング付を乗ておたが、画一的な  
最近の国産車の中で、個性的なカフェアは安全面を、しつかりととらえて、たしかに技  
術で美しく作られておれば、見ても楽しいもの。10月には色とりはなやかな  
カスタムの御入来を待ちたいもの。千ヨリパーも星野の中なら走れませう。

☆ 女性がハンドルを握り、男性が後座に坐って、かっとはしてゐたという情報が入  
りました。ぼつとはしてゐたじゃなくて、かっとはしてゐたというのです。10月にはレ  
イズ・クラブやフェミニキも声かけてみようかな、よそうかな、乗てくれるかな、乗るいた  
なア。

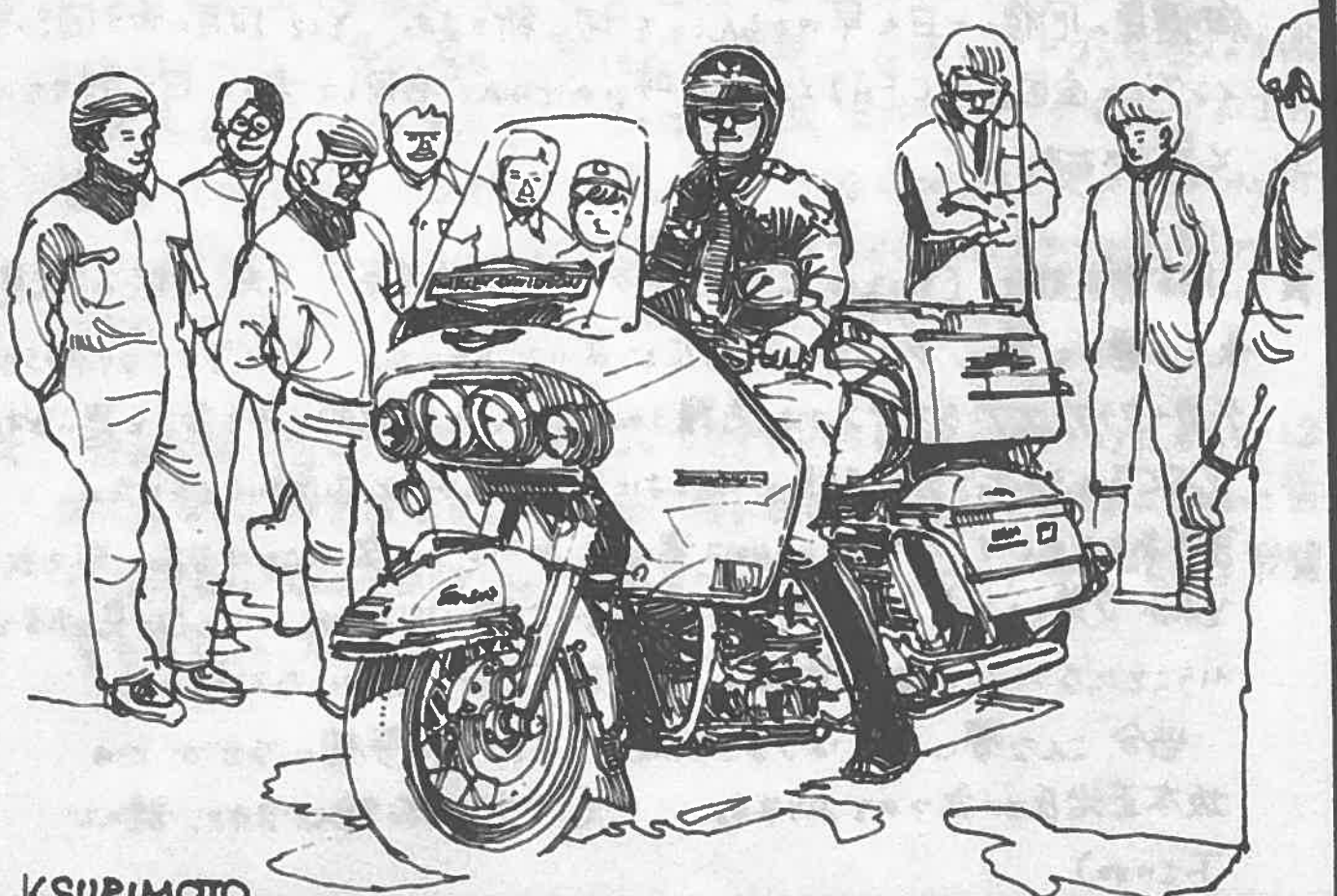
★ ハーレーは7台の参加 フル装備のハーレーもあり。威風堂々というところ。  
秋元委員のサイトバルブの54年スポーツスター900は日本にたいて1台の車だが完璧な  
レストレーションを終えて走ってきた。峠越えでは若手のCB72タイフーンIやYDS-II  
CB400を尻目に、ステップから火花を散らしての豪快なコーナリングだったという。  
びくくりする若手は、「この車でゆっくり走るとジンマシンが出る」と言ったというから  
さあがニラーのアキモトと言われただけある。ちなみに彼の金言をひとつ  
お知らせしておきます。

二輪は倒れるのがあたりまえ。転ばなければおもしろい

50でも1200でも二輪には変りないから別にどうってことはないよ。

いやー まいった、まいった。

10月にはドゥカティ コルサで是非来てもらわなきゃならないよ。



K.SUPIMOTO

★ カ2回エントリーと会員募集に際して 実に たくさんの方々から 電話や手紙をいただいた。 “浅田には ぼくの青春の思い出が いっぱいある” と書いて来た下さった方。 “オートバイ乗りは 所詮 孤独。 どのひとりぼっちか 4月と10月には ひとりごに ハントルか 浅田に向くようなクラブにしてみよう” と書いて下さった方。 そのひとりひとりを 4冊の帳簿に 整理して 記入しただけに、星野の坂をのぼって来る車を見ると 見か知らずの方ばかりなのに、あ、吹田の苗代さん、川越の帯津さんも、... 群馬の須藤さんも... と思わぬ胸の熱くなる思いであった。ひとりひとりの方にかけて 力いっぱい 握手をしたかった。 ありがとう 遠くから来て下さって ありがとう と ほんとうに うれしかった。 として 25年、バカだ、キライだ、キライだ、いい年して... と ありとあらゆる ひやかしに 耐えて 乗り続けて来て、この日ほど オートバイをはなれなくて よかった と思ったことはない。 空は 晴れど 心もまた 晴れきり。

★ MCFAJ. 全日本モーターサイクルクラブ連盟の事務局長、西山秀一氏も 来られる予定だったが 健康を害され 欠席されたが 当日朝 わざわざ 現地にお電話も下さった。 MCFAJは 浅間ミーティングクラブに 全面的に 協力する とのことである。 御健康の回復の一日も 早やからんことを 切に 祈ります。 として 10月のカ3回ミーティングには 全国の MCFAJメンバーに 呼びかけられ 合同して 楽しい日を持ちたい と思うのです。

★ 小林彰太郎氏 (といえは 二玄社カーグラフィック編集長)、A誌、B誌の “変身長” とは違つて 羨しい、カフニ... スタイルで おいで下さった。 CCCJ、つヨリクラシック・カークラブ、オブ・ジャパンでも 活躍されておられることは 御承知の方も多い と思います。 CCCJのミーティングも 10月に いっしょに やりませんか と お願ひして書いた。 来年あたり、もし そうなつたら、これは 楽しい。 べらぼうに 楽しい ことになる。 として、もし それが 定着したら、10月に 軽井沢に ゆけば、二輪と四輪か、いっぺんに 見られるという ことになつて、これは 長野縣の、いや 日本の名物行事になるぞオー。 当分、こんな夢に ぼくは うなずいて 続け。 として その夢枕に なせか かの 坂本正治氏が 立つのであります。 (ミサキ CG 読んでまかせ、読んで下さいね)

★ 18日に皆さんに売りつけた記念バッチのチャリティ分、40500円は19日に、秋元、中沖、星野三委員と齊藤忠一会員とで軽井沢警察署に持参し、署長に手交しました。われわれの希望通り、地元の交通安全のために使ってくれるよう、軽井沢交通安全協会に寄託されましたので御報告します。金額は少くともわれわれの意とあるところをくんでいただきたいと思います。又、秋にも何らかの方法でチャリティを行いたいと思っておりますので、どうか御協力下さい。

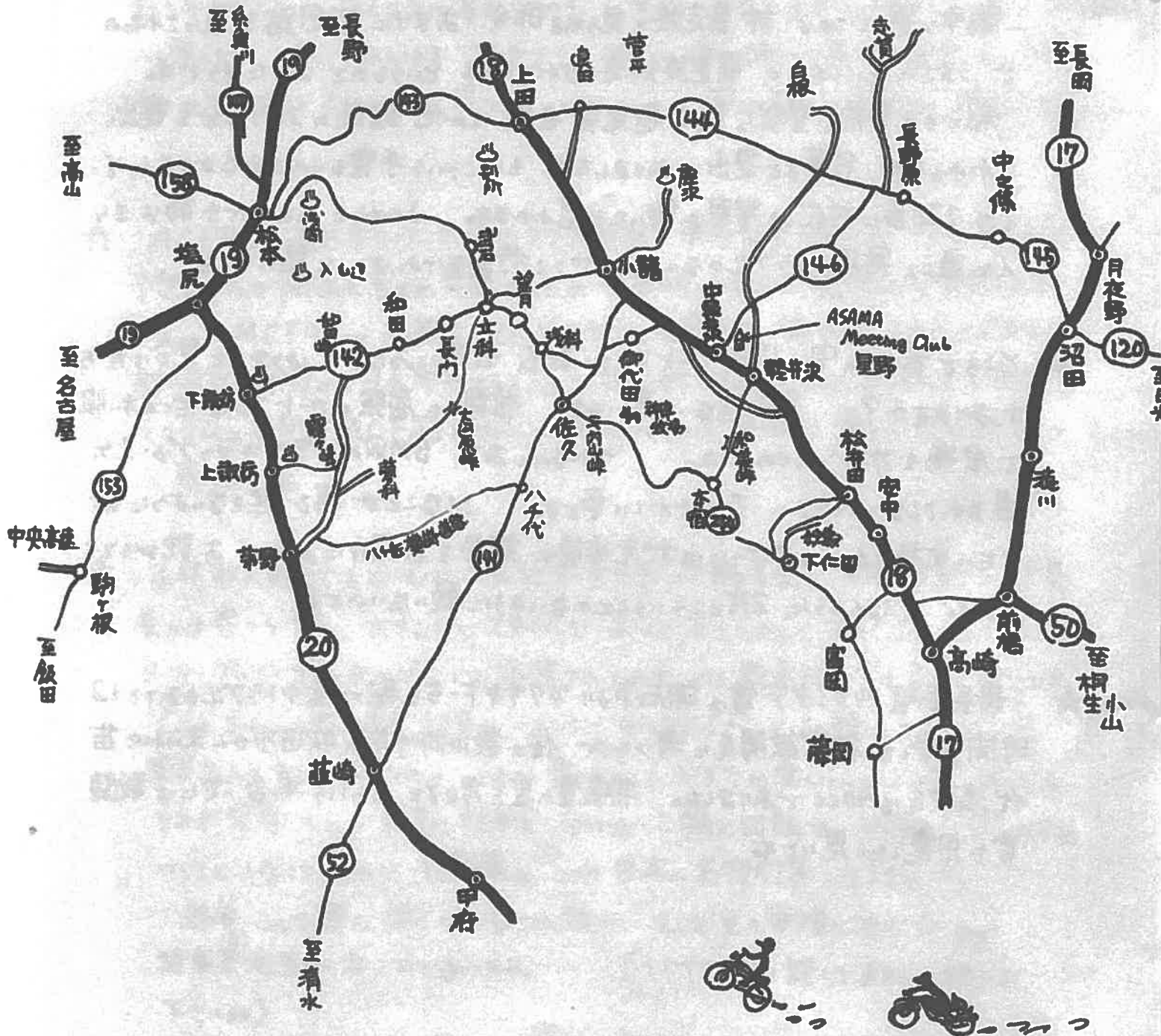
★ 警察で聞かされたのですが、110番はやはり小さんの3倍くらいあったようです。二輪車に乗ってれば、即暴走族と見られる。昨今、おまけに迂回路を通らされたので、うるさいというもの、暴走族が走りまわっているというものがあったようです。私どもは事前に警察に設立趣意書、会則、その他雑誌のコピーなどを提出し、いわゆるままに名簿まで提出してありましたが、もし、こういう手帳をいれおめなかつたら、そんな110番に対応して警察は動いたと思われ、これからとあすべき筋はきちんと通して無用のトラブルのないようにやって行かなければ、と思われました。

★ どこで皆さんの中に、当日、カトマンが数名、会場にいたのを、はっきりと見分けた方がおられますか？ 多分居ないと思えます。依頼した屈強のカトマンは全員の私服で会場をガードしてくれました。それなのに、ああ、BMWのプラグキヤッパが1台、盗まれてしまいました。なぜかわい事です。こんなことが再び起きないように祈りたい気持ちです。木下には秋元委員が、新田をお届けにあかっつお詫かしてります。ほんとうに、2度とこういうことのないように願いたいので。

★ 最長距離 ツカシタデ賞は、明石市よりカワサキF-5を駆って途中トラブルもあった12時間を費した、神宮敏勝氏に渡ったが、僅か数10軒手前の吹田市から乗られて、苗代清次氏は90ccでありました。排気量の差を考えると、こういう場合、次には取囲賞も用意したいと思えます。

# これは ミーティング会場 までのヒントです

周辺ミーティング会場へのコースは、いろいろありますので気分に応じて幾とホリかに組合せて来ていただければ尚楽に楽しめます。下図はその略図ですから詳細は、もちろん最新の道路地図にたよって下さい。





10月の会場の略図です

上図はミ-ティングクラブの10月23日の会場の略図です

- ①は受付です
- ②の斜線部分は駐車区域です
- ③はコンクール出場車用の駐車区域です。写真撮影の便をはかるため、今度はいっしょに場所をとります。
- ④はコンクールのスタート地点で線のように直線コースを突進し④に到着します。見物は①の反対側になります。

ニュー・ホシの脇のサイクリングコース(1周約一キロ林内コース)はレンタ自転車で行きます。2日の土曜日に早く来て野球やテニスをやろうという元気な方は道具持参で来て下さい。

4月に写真撮ったかたにお願いします

4月に写真撮ったかた、ぜひ10月のミ-ティングにサービス判で結構なのでお持ちいただけませんか。10月には写真を展示しようと思っておりますので……

ア. 俺がうってゐる ぼくの車を、なんと、まっとう楽しいと思うのです。なにしろ委員はカメラどこで撮ったので、どうか、よろしくお願いします。連絡事務所: 不用の分があったら送っていただけると、まっとううれしいのですが……

## 会計報告

収入の部	年会費	388,000円 (会員194名分)
	記念パンチ売上	120,000円 (120ヶ)
	計	508,000円

支出の部	印刷費	45,500円
	通信連絡費	10,500円
	事務用品	3,040円
	印章	19,700円
	警備費	4,000円
	記念パンチ製作費	90,000円
	交通安全協会寄金	30,000円
	封筒類	15,000円
計	204,240円	

差引 303,760円 残

但、5月23日現在、会員証及び会封筒の追加印刷分は含まず。以上、謹んで御報告申し上げます。

## 編集後記

4月が終ると、さぐり会報のことで委員会をかたわた。会計報告でおわかりと思うが印刷費も何も、みな会員の方の協力で原価に近い費用でやっていただいた。

何しろ1回の時の赤字がまた残ってあるというクラブである。その赤字は今年度決算の時まで埋めることなく、某委員の心とこころにはとれまで残ることはないのである。

入会申込みを電話で問合せ、又、入会金、4月参加費を現金書留で郵送下さった皆様にとって年会費は実質的に2000円をはるかに超えてしまっていることになり、運営上、まことに心苦しくこの稿でお許しを願ってをせます。

又、職業を持ち多忙な毎日を送られる委員諸氏か、とれとれ、電話や切手代などのとれとれの支出も各自のポケットマネーでまかなって下さったことにもこの場でお礼を申し上げます次第です。



これから、会報の印刷、製本、発送、その他、大口の支出が続くので、11月の会報での収支決算のほどが、早くも心配である。

と人々こんなで会報も活字でやると高くなるので、ナマの文字のままにやることになってしまった。とれどは誰の字でやるかという、達筆を自慢する者はかりど、誰も名乗り出るものはない。とうとう費用節減を言い出したボクにお鉢がまわって来てしまったという次第。クセのある読みづらい字も誤字も文法上のまちがひも萬幸、赤字を出さなためと理解してほしい、どうかカンベンして下さい。

内容もまかされてしまったので、全く参りました。秘録、浅間高原レス場の生い立ちからレースの公式記録まで入手してあったが、これを読物ほうに連載しようという某委員の雄大な理想は、パーチ数の関係で出来なくなった。秋の会報のおへては、その某委員とボクがやることに決ってから、達筆を自称しはじめた某委員に一任することになるので、ボクは病気をなおすから、お手並拝見と行くわけだ。

はじめと、いろいろな事を体験した、へんなことになった、というのが、実感として残った。秋の運営には、各クラブの方、有志の方に、とれどれ、いろいろな役を分担してほしい、こうと思つてゐる。そういうことを通して、みんなのクラブという意識が強くなればありがたい。と、その節はよろしくお願ひします。

1号は、10月の第3回ミーティングのガイドブックの役も果たす、と人々ふうになってしまった。拙い内容だが、どうか未長く、とつておしい下さ。10月に持って来られると人々ふうであつてほしいです。

現在、世界の25ヶ国に174の自動車博物館があるそうで、1日も早く日本にも本格的なものが出来ると。とれまどは、われわれの浅間ミーティング・クラブが、そのさきかきをやらねばならぬのです。どうか、沢山の人の参加を、沢山の人の勧誘をお願ひします。

では、10月に元氣でお会いしましょう!!

お便りをお待ちして置きます。

会 員 住 所

○印 委員  
(アイウエオ順)

氏 名	住 所	電 話
会 長 星 野 嘉 助		
副会長 星 野 晃 良		
浅 場 啓 二		
嵐 城 司		
青 木 高 美		
新 井 行 男		
新 井 稔		
○秋 元 紀 一		
秋 山 博		
新 井 浩 之		
上 水 晃		
井 上 恵 介		
板 倉 和 夫		
石 井 義 明		
岩 崎 安三郎		
今井田 篤 典		
岩 崎 和 夫		
伊 藤 修 次		
伊 草 幸 夫		
岩 瀬 昭 一		
薄 井 辯 三		
梅 村 始 世		

住 所	氏 名	電 話
上 原 公 一		
江 原 和 男		
大 滝 強 平		
大 滝 昭 雄		
大 野 清		
大 川 悠		
大 川 良三郎		
大 井 長		
帶 津 太 平		
岡 本 利 男		
岡 村 武 紀		
岡 宏		
小 見 欽 哉		
大 筆 正 彦		
大 筆 晃		
小 川 孝		
大 林 誠 二		
長 田 正 治		
大 間 政 人		
長 田 昭 一		
岡 崎 文 夫		
大 塚 二 郎		
加 藤 秋 彦		

氏 名	住 所	電 話
河 合 宗 次		
川 合 淳		
龜 山 勲		
片 柳 徹		
帷 泰 文		
風 間 深 志		
鬼 頭 正 彦		
菊 池 利 晃		
久保田 安 博		
栗 原 則 夫		
栗 原 将 明		
熊 倉 重 春		
栗 原 義 文		
栗 原 英 二		
藏 田 直 樹		
見 目 詔 一		
小 林 彰 太 郎		
小 山 久 善		
小 出 晃		
古 林 繁		
越 島 辰 夫		
小 平 茂		
小 池 和 夫		

氏 名	住 所	電 話
小 林 正 人		
小井土 達 也		
小曾根 勉		
小 俣 孔 文		
近 藤 謙 介		
小 室 正 春		
小 松 洋 一		
興 梶 治 夫		
肥 塚 和 夫		
佐 藤 陽 一		
佐々木 元 実		
斉 藤 裕		
佐々木 博		
佐 光 信 雄		
斉 藤 忠 一		
斉 藤 秀 巳		
斉 藤 富 男		
佐 藤 康 郎		
斉 藤 幸 光		
嶋 田 真一郎		
島 田 章		
神宮司 罔 詔		
神 宮 敏 勝		

氏 名	住 所	電 話
白 石 時比湖		
鳥 村 耕 作		
鈴 木 勇		
菅 野 好 昭		
杉 山 隆		
鈴 木 照太郎		
鈴 木 捷 彦		
鈴 木 陸五郎		
鈴 村 雅 道		
須 藤 幸 雄		
○杉 浦 正 之		
須 田 高 正		
○摺 本 好 作		
須 藤 元		
須 藤 恵 臣		
関 根 忠 彦		
瀬 戸 潤 司		
関 口 忠		
関 口 次 郎		
高 橋 美 夫		
高 田 昭 久		
田 辺 憲 一		
高 柳 義 明		

氏 名	住 所	電 話
谷 晴 輝		
田 中 岳 一		
高 橋 秀 明		
高 梨 良 明		
高 橋 義 治		
田 中 隆 雄		
高 橋 貞		
田 口 孝 美		
田 島 一 志		
田 中 宗 人		
千 葉 敬 治 郎		
千 葉 保 男		
辻 元 達 男		
鶴 田 育 裕		
辻 百 子		
鶴 岡 精 一		
手 塚 良 男		
道 幸 久 司		
道 幸 英 三		
富 永 信 之		
○中 沖 満		
中 川 昭		
苗 代 清 次		

氏 名	住 所	電 話
中 村 章		
中 村 喜 利		
仲 條 敏 昭		
長 屋 秀 明		
中 込 孝		
並 木 豊		
西 山 秀 一		
西 山 俊 樹		
沼 尻 泰		
沼 崎 憲 司		
野 寺 義 光		
野 沢 隆 産		
橋 本 茂 春		
橋 本 享		
○福 原 広 昌		
藤 重 健 司		
船 山 理		
藤 田 弘 志		
逸 見 高		
○星 野 嘉 苗		
○星 野 裕 一		
松 平 茂 行		
牧 治 夫		



氏 名	住 所	電 話
曲 山 良 一		
松 島 健 二		
松 本 正 博		
松 尾 孝 昭		
丸 山 舜 茂		
宮 崎 一 裕		
○宮 崎 透		
宮 川 俊 治		
箕 輪 冬 樹		
御 田 昌 輝		
宗 像 盛 男		
村 岡 力		
向 山 直 樹		
山 本 晋一郎		
山 口 貞 夫		
矢 崎 正		
山 岸 哲 夫		
矢 内 三 郎		
谷 田 部 研		
山 田 麻 巳 都		
湯 本 一 夫		
横 田 音 喜		
横 江 徳 長		

氏 名	住 所	電 話
吉 田 匠		
吉 野 秀 夫		
横 田 章 正		
吉 成 恒 男		
吉 野 健 司		
吉 村 国 彦		
吉 川 一 巳		

追 補

建 部 康 一

建 部 康 夫

建 部 義 明

坂 川 義 雄

井 田 三 郎

井 田 司 郎

近 藤 弘 光

早 田 猛

佐 藤 勇

坂 卷 正 夫

発行 昭和51年6月15日  
発行所 浅間ミーティングクラブ連絡事務所

文・文字 中沖 満  
イラスト 摺本好作・中沖 満  
編 纂 不二企画 古林 繁・中沖 満  
製 作 不二企画印刷所 企画部

(非売品)

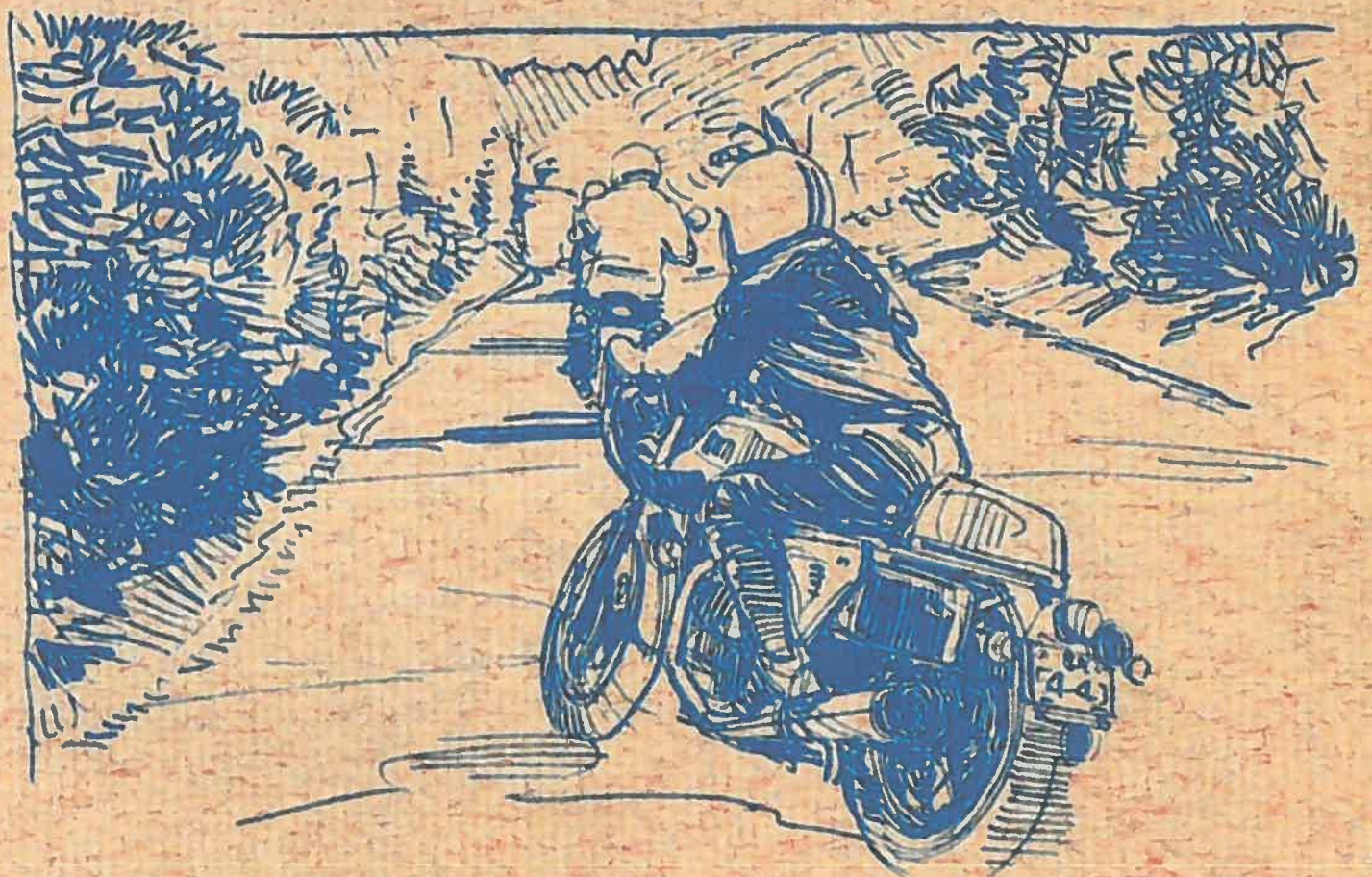
いつの頃からか バイクに乗って  
いつの頃からか 沢山の友人が出来て  
心楽しいときも 心うちひしがれた時も  
ぼくは走り続けていました

いつの頃からか もっと沢山の友人を  
欲しいと思い

今 心たかなる四月の日曜  
みどりの木洩れ陽を浴びて次々と  
星野の坂を沢山の友人がかけ登って来ます  
その沢山の仲間に  
感謝の心をこめてこの第一号を  
おくります

集ってくれた人と車に捧げます

中沖 満



K.SUPRIMOTO

(51年9月)

会 員 住 所 追 補 版

(アイウエオ順)

麻 生 豊
荒 井 英 行
天 野 隆
安 東 隆 二
安 藤 雅 治
井 上 祥 治
伊 藤 光 昭
伊 藤 将 輝
家 台 才 明
上 田 憲 二 郎
梅 津 孝 一
<del>榎 本 光 夫</del>
大 塚 一
奥 野 功 二
小 野 千 春
大 野 利 夫
大 久 保 力
大 塚 学
小 野 里 真
小 幡 勉
小 田 健 二
柏 木 勝 己
片 岡 悦 子
川 口 雅 己

金子浩三
川合義雄
川井康弘
菊地昇
木内敏夫
北川忠男
岸勝之
木原博
木村明澄
窪木恒勝
黒田明
黒瀬俊一
<del>櫛谷久</del>
栗原信夫
小林哲郎
小田健二
小島文夫
近藤英
郷頭美春
郷田雅之
坂本秀史
佐藤好美
鈴木忠男
鈴木修己
関根敏正

竹 内 真 治
高 橋 通
高 橋 光 三
田 宮 洋 一
高 野 和 則
① 高 津 純 男
千 葉 英 夫
近 田 茂
千 田 義 孝
津 田 昌 彦
寺 田 弘 司
内 藤 節 夫
<del>中 島 昭 仁</del>
中 山 博
長 岡 孝 典
永 山 和 之
西 田 文 男
沼 尻 新
野 沢 弘
服 部 一 夫
原 賢
羽 生 氏 明
羽 生 裕 子
林 崇
尾 藤 一 則

